

豊岡偉人伝 9

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。

その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

明治の新国家設立に尽くした政治家 **桜井 勉**

桜井 勉 (1843~1931)

出石町出身 政治家、官僚、郷土史家

- 1843年 出石町伊木に生まれる
- 1850年 7歳 藩学弘道館に入学する
- 1868年 25歳 鳥羽伏見の戦に遭遇し、藩主に従い上京する
- 1870年 27歳 出石藩大参事となる
- 1871年 28歳 東京詰を命じられ、出石県権大参事となる 出石県が廃され松山県権参事となる
- 1873年 30歳 租税権助に就任する
- 1875年 32歳 気象測候所の創設をはかる
- 1878年 35歳 地理局長となる
- 1879年 36歳 山林局長就任、官林調査および作業を推進
- 1881年 38歳 内務大書記官となる
- 1889年 46歳 徳島県知事となる
- 1890年 47歳 妻八重死亡(40歳)
- 1894年 51歳 日清戦争起こる 兵庫県第9区選出衆議院議員に当選する
- 1896年 53歳 山梨県知事となる
- 1897年 54歳 台湾新竹県知事となる
- 1901年 58歳 内務省神社局長となる
- 1902年 59歳 退職
- 1922年 79歳 「校補但馬考」を出版する
- 1931年 88歳 10月12日逝去



日本の天気予報創始者

忘れてはならない業績の一つに、気象測候所創設があり、天気予報の父とも呼ばれています。気象観測や天気予報が人々の生活に大きな関係があることを痛感した桜井は、各地方に働きかけ測候所の創設を推し進め、全国に気象観測網の基礎を築きました。

兵庫県の成り立ちに関わる

1876年、桜井は当時の内務卿 大久保利通に呼ばれ、政府内部で内定していた鳥取県と豊岡県の合併について意見を求められました。そこで「但馬と因幡(現鳥取県)の間は山鹿険しく往来が不便であるため豊岡県は、飾磨県(現播磨地方)と合併させる方が適切である」と進言し、但馬地方が兵庫県に編入されるきっかけを作ったのです。

このことは、但馬が兵庫県の中で辺地に位置するため、他の地域に比べ開発が遅れる原因となったとする否定的な意見が存在する一方、兵庫県の財政力により但馬で多発した水害や震災などの災害復興や治水工事が大規模かつ迅速に行う事ができたという肯定的な意見もあります。



▲桜井が活躍していたころ(1887年)に建てられた旧出石郡役所「明治館」

代々出石藩の儒官を務める家に生まれ、7歳で藩校である弘道館に入学し英才教育を受けました。その後は、江戸や伊勢などで教養を深め、明治新政府で内務に携わりました。租税権助就任時には、山陰・山陽地方における地租改正の統括、山林局長時には、森林行政の基礎構築などさまざまな業績を挙げました。

「校補但馬考」執筆

退職後は、出石の自宅で悠々自適の生活を送りながら教育などの振興に尽くし、特に但馬の郷土史研究の基礎となった「校補但馬考」の執筆に心血を注ぎました。この著書は、曾祖父が著した「但馬考」をもとに、800冊にものぼる書類や資料を参考に作成した一大著述です。



◀校補但馬考(市立図書館蔵)

●発行／豊岡市
☎0796123111
FAX231124
●編集／政策調整部秘書広報課

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)
・竹野 ☎4711111
・出石 ☎5231111
・城崎 ☎54423210001
・日高 ☎54423210001
・但東 ☎54423210001